

農業部 だより

但馬農業高校
平成29年11月

No.92号

養父市創生シンポジウムで 但農紹介プレゼン

「養父市のチャレンジが日本の未来をつくるか 国家戦略特区と農業を核として養父市創生にどう繋げるか」というテーマで、11月18日(土)に八鹿文化会館でシンポジウムが開催され、その中で本校を紹介する機会をいただきました。

第2部の事例発表の中で、「生徒が養父を愛し、本校が養父市に愛される学校に！」の題で、本校の果樹、但馬牛、但農どり等の取り組み、そして但農の未来について、2年畜産科の松上愛琴さんが操作するパワーポイントを使い、2年生活科の才木美優さんが発表を行いました。

このシンポジウムは、養父市にとどまらず、全国に向けて本校を紹介する機会となり、発表後は大きな拍手があり、その後も多くの方から「良かった」との声をかけられました。

さらに持参していたシクラメン、野菜、但農どりは発表の中で宣伝したこともあり、大会後、完売となり、但農ブランドを知っていただく機会にもなりました。

他の事例発表では、養鶏班がお世話になったアムナック社員で本校での農学セミナーに参加されている増田さん、兵庫ナカバヤシから、今春農業科を卒業した足立渚沙さんの発表がありました。



但農祭の大勢の観客の前で 仙台での全国和牛共進会を再現・紹介

9月に仙台で開催された全国和牛能力共進会、復興特別出品区「高校の部」に出場し、3位に入賞した生徒たちが、但農祭で、「はなふく」の紹介と共に、牛を操るハンドラー等の再現・紹介をしました。



但農祭の「牛に引かれて花嫁行列」直前に、多くのお客さんが集まっている中で紹介できたことは、非常に良かったです。発表の直後には広瀬養父市長さんも含め、多くの方に「はなふく」に触っていただくこともできました。来年度以降の但農祭でも、このように、生徒の活動を発表する機会をぜひとも実現したいものです。

もちろん、今や但農の伝統文化となった「牛に引かれて花嫁行列」は、今年も華やかで、盛大に行われ、多くの観客が見入っていました。



今年も出石のたくあん寺「宗鏡寺」とコラボ

11月24日(金)に、毎年恒例となった出石の宗鏡寺(すきょうじ)とのコラボによるたくあん作りのため、2年生活科の「農と食」の生徒が、学校の圃場でダイコン800本を収穫しました。収穫後は、ダイコンについての土を洗わなければならない、大変です。この日も寒い朝で、ダイコンも水も冷たく、手が痛くなりました。



洗い終えたダイコンは宗鏡寺に運ばれ、弘道小学校の生徒さんと一緒に干しました。



この取り組みは平成22年から始まり、23年には宗鏡寺の紅葉祭で「農と食」としてお菓子などを初めて校外販売し、23年にはNHKテレビでダイコンの収穫の様子が放映されました。毎年、新聞に掲載され、今年も「神戸・毎日・読賣」新聞に掲載されました。

知っている? 2通りのたくあんの作り方

たくあんの代表的な作り方は2通りあります。

- ①大根を塩で脱水してから漬け込む方法。これによってできたものは、シャキッとした食感で、今の主流。
- ②大根を一度、天日で干してから漬け込む方法。これによってできたものは、少ししわになり、歯ごたえのある味わい深いもので、昔からの作り方。

農学セミナー特別公開講座「GAP」説明会

11月4日(土)午前中に、農学セミナーとして鳥取大学の松村一善氏による「これからの農業経営を考える」と題した講義があり、午後からは東京の一般社団法人GAP普及推進機構事務局の今瀧博文氏を迎え、講演会が集会室でありました。

GAPは「Good Agricultural Practice」「農業生産工程管理」で国際標準規格です。この講演会には養父市の特区参入企業関係の方が多く参加され、本校生徒も4名参加しました。

いつもは脇役の小懸崖菊が存在をアピール

学校の生徒玄関付近に、毎年、3年生農業科草花の課題研究で作った大懸崖菊と小懸崖菊が飾られます。いつも、小懸崖は大懸崖の脇役でした。しかし、今年は大懸崖がなく、農業科3年の足立、中尾、羽瀧君が作成した小懸崖が玄関先を彩り、存在感があります。2つの小懸崖を合わせて、「ハート形」にしていたものは特に可愛く、但農祭のとき、お母さんが子供さんと一緒に写真を撮りたくなるほど可愛いハートでした。



但農祭だけでなく
きれいな シクラメン販売中
ぜひ購入を